

## 平成28年度第3回南あわじ市総合教育会議会議録

1. 日 時 平成28年11月10日(木)

午前10時00分開会

午前11時38分閉会

2. 場 所 南あわじ市役所 本館 304・305会議室

3. 協議事項

(1) 学校長不祥事に係る対応等、経過報告について

(2) 学力向上への取組について

(3) 28年度主要事業の進捗状況について

(4) 今後の教育施策の方向性について

4. 出席又は欠席した構成員氏名

出席構成員

〈南あわじ市〉

南あわじ市長 中田 勝久

教育長 岡田 昌史

教育長職務代理者 岡 一秀

教育委員 轟 孝博

教育委員 前川 美津子

教育委員 宮崎 典弘

〈学校組合〉

管理者 中田 勝久(兼務)

教育長 岡田 昌史(兼務)

教育長職務代理者 山下 富弘

教育委員 岡 一秀(兼務)

教育委員 宮崎 典弘(兼務)

教育委員 河上 和慶

5. 事務局関係職氏名

企画部長 北川 真由美

ふるさと創生課長 前川 秀美

教育次長 藤岡 崇文

教育総務課長 山見 嘉啓

学校教育課長 廣地 由幸

社会教育課長 福原 敬二

体育青少年課長 松本 典浩

中央公民館長 永田 加織

教育総務課課長補佐 坂田 真由美

教育総務課係長 新地 美里

開 会 午前10時00分

【山見教育総務課長】 失礼いたします。

定刻になりましたので、只今より、平成28年度第3回南あわじ市総合教育会議を開催いたします。本日は、南あわじ市教育委員会教育総務課長の山見が進行させていただきます。

それでは、開催にあたりまして中田市長より、ごあいさつをお願いいたします。

【中田市長】 皆さん、改めましておはようございます。

本当に夏から秋がなくて一気に冬になったような冷え込みでございまして、私も風邪をひかないか心配しているのですが、レタスの植え付けとか、玉ねぎの種まきとかにも影響が出ていて、農家の皆さん、とても苦勞しているのだという話も聞いております。南あわじ市は、やはり野菜が一番の収入源ですので、そのようなことも考えていかななくてはなりません。

そして、今日は平成28年度第3回南あわじ市総合教育会議のご案内を差し上げましたところ、公私何かとお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。また、日頃は南あわじ市の教育、特に先生方にはいろいろとお骨折りいただきまして、この場を借りて改めて厚くお礼申し上げます。

先日、新聞等々でご案内のこととは思いますが、10月29日に洲本市文化体育館において、淡路島3市、県民局、くにうみ協会、観光協会、青年会議所、このメンバーで構成する淡路島日本遺産委員会が主催する「淡路島日本遺産認定フォーラム」を開催いたしました。おかげで今年、認定を受けたということでございまして、今、そういう取組がどこの地域でも非常に積極的にされておりまして、その地域をいかにどのように売り出すかということでございまして、淡路の場合は、「国生みの島・淡路」ということが、大きな1つのターゲットがございましたが、認定を受け、ちょうどその日は、前の文部科学大臣の馳先生を迎えて、日本遺産認定記念式を行ったところでございます。また、西村先生も出席をしていただきました。特に、「驚いた。」と言ったらおかしいのですが、なかなか馳先生、僕も雑談で話をしたら身体も大きいし、聞いたらプロレスをやっていたということで、なかなか堂々としていて、びっくりしたところです。話は、横に逸れましたが、その前文部科学大臣も来ていただきました。今、この日本遺産を進めることによりまして、今後世界遺産、淡路側、兵庫県側は、自然遺産で進めておりますが、徳島側は、文化遺産で進めていきたいということで、どこかで調整しなくてはならないと思っております。しかし、そういうおかげをもちまして、一つひとつ淡路のそういう文化が認定してもらえるような形が出来上がってきております。当然そういうものがあるのですが、やはりその根底をなすのは地域に根ざした教育が非常に求められておりますし、いろいろと取り組む必要があります。

今日は、この後ご提案、ご審議願う部分もありますが、先生方の積極的な意見をお伺いいたしまして、この会議が南あわじ市の子どもたちの明るい未来につながっていくというような会議でありますことを冒頭にお願い申し上げまして、私からのご挨拶に変えたいと思います。今日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

【山見教育総務課長】 ありがとうございます。

まず本日の出席者ですが、お手元の資料の方に本日の出席者名簿をつけさせていただいております。第1回で当会議の構成メンバーのご紹介をいたしましたので、省略させていただきます。

尚、この会議については、自由闊達な発言によります委員間討議が基本ですので、よろしくお願ひいたします。

会議次第のとおり、本日の協議事項は、「1. 学校等の不祥事に係る対応等、経過報告について」「2. 学力向上への向けての取組について」「3. 平成28年度主要事業進捗状況について」「4. 今後の教育施策の方向について」の4件でございます。

まず、協議に入ります前にお配りした資料の確認をお願いいたします。

(資料の確認)

【山見教育総務課長】 さっそく協議事項1番の「学校長不祥事に係る対応等、経過報告について」から入りたいと思います。

お手元の資料3ページをご覧くださいと思います。

担当の廣地学校教育課長より報告いたします。

【廣地学校教育課長】 おはようございます。学校教育課長の廣地でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

お配りいたしました資料の方をご覧くださいと思います。

今回の学校長不祥事に係る対応等、経過報告につきましては、9月以降の取組について報告をさせていただきます。

まず心配しておりましたけれども、順調な2学期のスタートとなりました。まず、スクールカウンセラーの配置ですけれども、9月におきましては、いろんなことが心配されておりました。そういった中で、週3日、月・水・木に配置をしました。保護者、児童からの相談は特にありませんでした。スクールカウンセラーを講師にしまして、子どもたちの理解に関する校内研修を市小学校の方で開催いたしました。

また、10月、11月につきましては、学校と協議をしたうえで、学校から10月は31日、11月にもう1回、28日に2日間スクールカウンセラーを配置していた

だきたいという要望を受けまして、10月、11月については、月1日ずつの配置となりました。

また、メンタルヘルスアドバイザーの派遣ということで、東播磨教育事務所におります臨床心理士や女性校長のOBの方が、このアドバイザーの仕事をされているのですが、9月9日と16日に派遣を依頼し来ていただきました。それぞれ1名の教職員が相談にのっていただいたということでございます。

次に市地区との連携ということで、2回、地区のあいさつ運動を地区の方にお世話いただいております。また、10月13日には、民生児童委員の方が学校訪問をされました。9月25日、敬老の日ですけれども、3年生が音楽でアトラクションの参加をいたしました。

また、学校の取組として、老人クラブとの昼食会、ふれあい囲碁ボール大会を9月29日に行いました。この時には、カレーの炊き出しをおいしくいっしょにいただいたと聞いております。

4番目に、学校行事でございますが、9月に入りまして、新しい校長の引率のもと修学旅行に行っていました。6年生が元気に行ったと報告を受けております。また、9月30日に夢プロジェクトで、元全日本バレーボール選手の大山加奈選手を講師に招きまして、子どもたちに夢を持つ大切さを講演していただきました。これにつきましては、神戸新聞等におきましても大きく取り上げられたところでございます。10月13日から14日の2日間にわたりまして、オープンスクールを開催いたしました。13日は87人の方、14日には64人の方々に参加をいただきました。10月15日に授業参観日を行いまして、PTAの研修会としまして、盲導犬訓練士の講演ということで、「いっしょに歩こう盲導犬と生きる」という講演をいただいております。また、10月18日には、魚の出前授業ということで、沼島漁協の方に来ていただきまして、魚のさばき方・おろし方等の出前授業をしていただきました。これも神戸新聞等にも大きく取り上げられました。10月24日から28日まで、5年生の自然学校が行われました。全員元気に行ってきたということです。この自然学校につきましては、三原志知小学校と合同の自然学校で行ったということです。

5番目に施設等の改修ですが、11月に1階の教職員トイレ及び更衣室の改修を実施しております。

6番目に、これは南あわじ市の教職員の研修ということでございますが、8月26日に南あわじ市小中学校校長を集めまして、コンプライアンス研修を行いました。香川大学大学院の特命教授であります野村一夫先生に来ていただきまして、「今、校長は何ができるのか。」ということで、コンプライアンスについての研修を行いました。また、9月21日には、南あわじ市小中学校教頭に集まっていただきまして、同じく野村一夫特命教授からコンプライアンスについてのお話をいただきました。特に教頭につきましては、「教頭の役割」という視点から研修をしていただきました。また10月

13日には、淡路の教育長会が主催した淡路全体の校長を集めてのコンプライアンス研修が行われました。大阪の弁護士の方を講師に招いての研修でありました。10月19日に新しく着任いたしました山口晶子校長の激励訪問ということで、淡路教育事務所の木下所長をはじめ管理指導主事の方の激励訪問を受けております。また、11月15日、来週の火曜日ではありますが、南あわじ市教育委員で再度学校訪問をする予定になっております。

以上でございます。

**【山見教育総務課長】** 学校教育課長の報告が終わりました。

これについて、ご質問、ご意見等がありましたらお願いいたします。

**【中田市長】** 先生方、どうですか。なにかあったらお願いします。

**【岡田教育長】** この件についてなのですが、先般、学校長と少し話をする機会がありまして、特に市小学校の先生方の状況は、どんな状況かな、というお話で、校長からの話は、全体的には落ち着いて、それぞれ子どもたちに接しておると。ただ、1人2人は、やっぱり少し気持ちの中に不安なところがあるのかな、という話でございました。私も先生方に普段通りの落ち着いた環境を作る必要があるのかなという話をして、と言いながらも先生方1人1人の思いというのには、差があります。ですからもうしばらく時間をかけて、女性校長ということなので、できるだけフォローをやっていただきたいということで、一応話を終わっております。ですから、来週改めて委員さんには、学校訪問というかたちで、よろしくお願ひしたいと思ひます。

**【山見教育総務課長】** 他に委員さん方から何かございましたらお願いします。

いつも定例会では、委員さん方にご報告させていただいていることとありますが、市長から何かございましたらお願いします。

**【中田市長】** 今、教育長から落ちついた状態だということで、有難いと思ひていますが、やっぱり子どもの感じというものは、やっぱり家庭でのそういう話が出ての経過というものが多いのではないかと思ひのです。

**【岡田教育長】** 市長、この件については、基本的には保護者から学校に対して、意見とか苦情とか全くなかったのです。子ども自身も2学期がスタートしたときから、あまり変化なく生活しているとのこと。ちょっと心配していたのは、先生方の方を我々は特に心配していたのです。

【中田市長】 何とか、その後はちゃんと落ち着いてきていることは有難いと思っております。

【山見教育総務課長】 他にないようですので、次に協議事項の2番目の学力向上への取組についてです。続いて、廣地学校教育課長の方より今回の全国学力状況調査の結果報告、また今年度の当市の学力向上への取組について報告をお願いいたします。

【廣地学校教育課長】 続いて失礼いたします。

別添の資料で、「全国学力学習状況調査分析結果」というものをお配りさせていただいております。これを元に説明をさせていただきたいと思っております。

1ページですけれども、学力調査の概要ということで、表させていただいております。

小学校6年生の国語につきまして、国語のA問題、主として知識の問題ですけれども、「話すこと・聞くこと」「読むこと」は、全国・県とほぼ同程度でありましたけれども、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」には大きく課題が見られております。ローマ字や一部漢字にも課題が見られたと深く感じております。国語B、主として活用の部分ですけれども、これにつきましては、全領域に課題が見られました。特にグラフを元にわかったことを的確に書いたり、目的に応じた文章に内容を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすることに課題が見られております。「書くこと」の問題に無回答が多く見られました。

小学校6年生算数の結果の概要であります。まず算数A、主として知識の部分では、「量と測定」「数と計算」の領域については、ほぼ同程度でありましたけれども、「数量関係」「図形」の問題に課題が見られました。続いて、算数B、主として活用の部分であります。これは「量と測定」「図形」はほぼ同程度でありましたが、「数量関係」「数と計算」については、できていない。式の意味や判断した理由を記述する問題にも課題が見られました。記述式の問題に無回答が多かったということでございます。

次に中学校3年生の国語の結果の概要ですが、国語A、これにつきましては、全領域において中学校3年生の国語Aについては、全国・県とほぼ同程度でありました。一部漢字に課題が見られました。国語B、主として活用ですが、これは「読むこと」「書くこと」の全領域において、全国・県とほぼ同程度でありましたけれども、文章の展開に即して内容を理解したり目的に応じて必要な情報を読み取ったりする問題に課題がありました。

中学校3年生の数学の結果の概要でございます。数学A、主として知識ですけれども、これは全領域において良好で、全国を上回っております。「関数」「資料の活用」に若干課題が見られました。数学Bの主として活用という部分につきましても、全領域において全国を上回る良好であったという結果でありました。ただ、グラフや

式をもとに判断理由の説明や方法の説明などの記述問題において若干の課題が見られたという結果となっております。

2 ページ、3 ページを見ていただきたいと思います。

2 ページには小学校、3 ページには中学校で、特に調査の中で課題が多くあった問題ということで、少しピックアップをしております。これについては、ご覧おきしていただきたいと思います。

次に4 ページをご覧ください。

4 ページには、全国学力学習状況調査における「質問紙調査」の概要を若干まとめております。まだ分析途中でございまして、今日現在で若干報告できる内容をまとめたものでございます。

まず小学校ですけれども、「朝ごはんをきちんと食べる習慣が身についている。」というものが、9割5分ありました。また、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。」というものは、全国・県平均以上の数字があがっております。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」という質問に関しても、9割8分、全国・県平均よりも上回りました。次に、黒三角で示しておりますが、少し課題が見られたところを言うと、「平日に、長時間テレビを見たり携帯電話やスマートフォンで通話やメール・インターネットをしたりする児童の割合」が全校・県よりも少し高い結果になっております。「家で学校に宿題をしている。」というものは、9割8分、全国・県を上回りました。ただ、「平日の学校以外での時間や学校が休みの日に勉強をしている時間」が、全国・県と比べて非常に短い結果となっております。「読書」について、「好き」と答えた割合が、若干全国・県と比べて低い結果となりました。「算数」が好きな児童の割合は、非常に全国・県と比べて高い結果となりました。「地域行事に参加している児童」は、7割を超えているということで、これについては、全国・県を上回っております。ただ、「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある児童」の割合は、全国・県と比べて低い結果となっております。

次に中学校でございしますが、「朝ごはんをきちんと食べる習慣が身についている。」は9割5分。「学校で好きな授業ある。」という生徒の割合も8割を超えていまして、これも全国・県平均よりも高くなっております。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」ということも9割5分ありました。ただ、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦したいと考える生徒」の割合が6割5分と、全国・県よりも低くなっております。また、「友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意であると思っている生徒」の割合も4割4分と全国・県と比べて低い結果となりました。「家で宿題をしている生徒」と割合は9割4分で、これも全国・県よりも高い結果となっております。「国語の授業で学習したことは、将来役に立つと考える生徒」の割合は、8割9分ということで、全国・県よりも高い結果となりました。「授業で自分の考えを発表する機会を与えられた。」と思っている生徒の割合は、8割5分、これも全国・県

よりも高い結果となりました。「読書」について、「好き」と答えた生徒の割合が、非常に全国・県と比べて高い結果となりました。「数学が好き」「数学ができるようになりたい」というところも、全国・県よりも高くなっております。地域行事に参加する生徒の割合は、小学校と比べては少ないですが、5割ということで、全国・県平均よりも高い結果となっております。

これらを踏まえまして、今年度、市の方で予算をいただきまして、「学力向上プロジェクト」ということで、小学校4年生、5年生の到達度テスト、そして、教職員の資質向上を図る「ゆずりはプロジェクト」、並びに読書量を増やすための図書購入費を増やしていただきまして、その取組を踏まえた中で、状況を報告させていただきたいと思っております。

5ページにこれらの結果を踏まえまして、今後の取組をどう考えていくかということで、少しまとめております。

まず、「指導方法の工夫改善」ということでございますが、基本的には、今年度「ゆずりはプロジェクト」ということで、特にアクティブ・ラーニングの研修を外部講師を招いて、それぞれの学校で取り組んでいただくということで、今年度は8校で取り組んでいただきました。沼島中学校・沼島小学校は、合同で取り組みました。また、倭文中学校、阿万小学校、松帆小学校、湊小学校、北阿万小学校、広田小学校の併せて8校で「ゆずりはプロジェクト」を実施しております。これらの結果につきましては、成果物をまとめまして、各学校に配布をする予定です。研究授業や外部講師の講演内容を踏まえたものを成果物としてまとめていただいて、各学校に配布し、広めていく計画をしております。

5ページにもどりますが、「指導方法の工夫改善」の小学校ですけれども「自分の考えや理由を書く」などの記述式の問題に課題があったということですので、基礎学力の定着を図りつつ「書くこと」に重点を置いた指導が、これから必要となってくるといことで、国語であれば、新聞や調査報告文などの文章の特徴を捉え書き手の工夫を見つけたり、グラフや資料を基にわかったことを的確に書いたりすることを取り入れていくことが考えられます。

算数においては、必要な言語活動を積極的に授業に取り入れる授業改善が必要と考えます。と同時に言語活動を充実させるために、読書に親しむ時間を確保するとともに、学校図書館の充実や学校司書の配置についても、今後取り組んでいながら、学力向上につなげていきたいと思っております。

中学校におきましては、今回全国平均とほぼ同じ結果でありましたけれども、課題もありました。中学校におきましては、平成28年度の全国学力学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア集などを参照にしながら、その中学校の部分の下から3行目にありますが、ICTを活用して問題場面やグラフ・図形を視覚的にとらえさせたり、ペア学習やグループ学習など授業展開などの工夫を図ったりして、お互いに学び



合える場面を設けるなど授業改善を図っていくことが大切ではないか。今回、中学校の様子をみますと、やはり数学なんかでも1年生、2年生、3年生の数学科の教師集団が縦のつながりをしっかり3年間の様子を見据えて指導に取り組んできたという報告も受けております。こういったことを大切にしながら取り組んでいけたらと思っております。

「教師の指導力向上」ですが、先程申し上げたような「到達度テスト」を南あわじ市単独で行っております。小学校4年生・5年生を対象にした国語・算数のテストですけれども、これらの結果を分析しまして、それぞれの学校で児童生徒のつまずきから授業改善を図っていくという取組をしております。特に今回その結果を受けまして、学校によっては、個人カード、個人カルテを作って、それぞれ担任だけではなくて、全教職員で子どもたちのよいところ、また課題点を把握して、しっかりとそのつまずきを指導していけるような体制作りに取り組んでいるというような学校の報告も受けております。また、授業改善という部分では、「めあて」「ふりかえり」カードを板書に掲示したりする自主学習、主体的な学習を組織的・継続的に行って、学力向上に取り組んでいきたいと思っております。それから先程申し上げました「ゆずりはプロジェクト」で、外部講師を招いて教職員の授業改善における校内研修を積極的に受け、教師の指導力の向上を図っていきたくと考えております。

学習タイムの充実ということで、ここにありますように、「南あわじ市がんばりタイム」において、地域人材を活用して個人の現状に合った補充学習を実施して、学力向上につなげていきたいと考えております。

最後に家庭との連携、小中連携の推進で、家庭学習の時間は少なく自主的なものも少ない、小学生で長時間テレビを見たりインターネットをする児童の割合が高いという結果をもとに、家庭と連携して、情報機器の使い方等ルール徹底を呼びかけた家庭学習の習慣化を図っていかなくてはならないと考えております。授業研究においても、小中連携、9年間を見通した一貫した学力向上の取組を進めていく必要があると考えております。

学力向上への取組につきましては、全国学力学習状況調査の概要、並びに学力向上プロジェクトの状況、そして今後の取組ということで、報告させていただきました。

以上でございます。

**【山見教育総務課長】** 担当課長の方からの報告が終わりました。

これにつきまして、ご質問、ご意見等はございませんか。

**【岡委員】** 学力向上について、各学校を訪問させていただいて、状況を見るわけなのですが、非常に各学校とも一生懸命取り組んでいる様子は、よくわかります。各学校の先生も忙しいこともわかるのですが、私もずっと中学校で数学を教えてきて、数学に

については、まあまあ良好であるという結果が出ているのは、一先輩として嬉しいな、と思いながら結果を見ておりました。

しかし、この課題、数学に関しても課題になるのは、ずっといっしょなんですよ。同じところで、課題になっているというようなことで、やっぱりこの各学校だけの取組では、中学校でもどんどん人数が少なくなってきて、各学校の数学の担当者は、そんなに人数がないのですよね。お互いに話し合うというようなところが、1人しか教科にあってはいないというような教科もたくさんあると思います。もうちょっと、我々の現役の時も思ったのですが、各教科の担当者というのが、もうちょっと活発になればいいのではないかという気持ちがありました。教科で集まって、お互いに研究したというのが、あんまりなかったのですよね。課題を解決するためには、大勢の中で、いろいろな議論をぶつけながら、同じ専門同士が話し合うというものは、非常に学力向上に向けていいのではないかと思うのです。各課題になるようなところの授業を行って、いっしょに研修するという場面もあっていいのではないかと思うのです。生徒指導とかの担当者会は小中学校とも、たびたびあるのです。しかし、教科になって、忙しいのはよくわかるのですが、学力を向上させようと思ったら、そういうような各教科で、市の課題となっているようなところを、しっかりとお互いに研修すること、1番よい方法ではないかと思うのです。各学校だけでというのは、自分1人になっているような教科が多いのですよね。特に小さい学校が多い中で、お互いに話し合う機会が、研修する機会があれば、もうちょっと学力向上も見込めるのではないかと思います。

**【山見教育総務課長】** ありがとうございます。

これについて、学校教育課長、何かありますか。

**【廣地学校教育課長】** 貴重なご意見、ありがとうございます。

南あわじ市の方は、研修担当校長会というものを開催しておりますので、これを南あわじ市の教育推進会議、仮称ですけれども、代表校長や教頭、また教員の代表も含めながら、南あわじ市の教育をどうしていくかという会議を定期的開催しながら、その中で、教科の研修、そういったものを考えていけるように議論していきたいと思えます。

ありがとうございます。

**【中田市長】** 今、細かく学力学習状況調査の結果、学力向上の取組についてお話いただいたのですが、いつもこういう内容を聴いて、見て、する中で、何とか「全国平均だったらええわ。」「県平均だったらええわ。」というような捉え方が、私にしたら受けるわけで、やっぱり、「そんなのよりちょっと、少しでも頭が出せるくらいのことを」と

ということで、今、岡先生も言われましたけれども、やっぱりそういうかたちでないと、「教育に力を入れている。」とか、「それなりの取組をしている。」とか言っても、結局は結果がこうして表れてきた時に、「県平均だったらええわ。」「全国平均だったらええわ。」では、ちょっと寂しいなど。これは、先生も一生懸命にやってるし、皆さんも一生懸命やっているのはわかるのですが。そんなことが、僕は教育者ではないので、どうしたらいいのか、ということとはわからないのですが、先生方と学校と教育委員会というところの、それぞれの立場があるわけなのですが、それをちゃんと形で進めていくことが、これからどんどん少子化が迎える、今でもそうですが、迎える時代が来たら、「やっぱり南あわじ市にいて、子どもの教育をしてもらったら、県の平均よりちょっといいわ。」とか、「全国の平均よりちょっとええわ。」とかいうようなことが、果たしできないものかと。素人考えですが、思い付くままに言わせてもらいました。

**【岡田教育長】** 今の市長の意見、まさにそうかなと思います。

今、私もずっと思っている1つが、南あわじ市では1つの学年に、中学校では450人、小学校も420人くらいですか。平均点のいうのは、見方によっては、なかなかわかりにくのではないかと思います。基礎基本をしっかりと覚えてもらう底上げをしっかりとやっていく必要があると思います。

それぞれ独自に勉強する子は、かなり上にいって、伸びしろというものが、あまりない子もいるのではないかと。ただ、全体的には、しっかりと底上げをすることによって、南あわじ市の子どもたちの教育というものは、全国平均よりも上になるということにつながると思うのです。ひいては、結果、子どもたちのためになるのではないかと思います。先程、岡委員からもありました、教科担当の先生方も情報交換であったり、技術力・授業力を高める研修というお話であります。これについても最後にお話ししようと思っていたのですが、今、南あわじ市の校長会からも、そういう要望が先般出てきております。今、必要なそれぞれの研修というのは、どんな研修が、それぞれの先生方にふさわしいのか。そういう研修を中心に南あわじ市の教育が、推進できればと。そういう場をつくるべきではないかと。今、学校教育課の方で検討してもらうように指示しております。非常に大切な分野であると考えております。

**【前川委員】** 重なりますけれども、学校の1番の使命は、学力向上ということで、今年、予算を組んでいただいて、今報告のあった向上プランで取り組んで、成果も目に見えてきているように思うのですが、やはり教師の授業力ということは、常に課題だと思います。学校訪問で、授業を参観しますけれども、やはり授業力の高い教師に教えられる子どもたちは幸せです。子どもは教師を選べません。日々の1時間1時間の授業の中で、その子どもが将来的に生きる力の基本になる学力を確実に身に着せさせるという強い思いで授業にかける教師の熱意というものを感じられる時とそうでない授業

もあります。

かつて少年院を訪問したときに聞いた話ですが、少年院に入るまでの経緯、いろいろな原因が考えられますが、共通するのは、小学校4年生の頃から授業がわからなくなっていったということです。「授業がわからない。」そのわからない授業を1時間、2時間、3時間、毎日受けていく、その思いというのは、子どもにとっては大きな重荷になっていくと思うのです。

子どもたちが授業を受けて「よくわかった。」「できた。」「理解できた。」「こういう方法であればわからないことがわかるようになる。」という学ぶ喜びを感じさせることが教師の使命です。例えば、漢字力が弱いということがありますが、その漢字を覚えるために、その場で子どもが泣いたとしても、将来泣くことが少なくなるように、鍛えるのが教師であると思います。やはり先生方一人一人の重責を、若手の教員が増えていきますので、原点に戻って、子どもを鍛え上げるための自分が教師であるという思いで、授業に臨んでほしいという気持ちでいっぱいです。その意味でも、また来年も引き続きこの「学力向上プラン」「学力向上プロジェクト」を組んで資質向上に力を入れてくださることを切に願っています。

**【轟委員】** 岡先生、並びに教育長、前川先生がおっしゃたことは、ご無理ごもったものですが、根本的にやはり低学年の段階で1年生、2年生、小学校であれば3年生くらいまでかな、それまでにいかに習慣化するかということをお話しているのが、大事であると思います。勉強の仕方なり、いろんなものについても、このようにしなければいけないのだという、粘り強く指導者は子どもに習慣をつけるという、そうすれば自ずとするものだという、小学校1・2年生のときにそういうことを叩き込んでおけば、中学校くらいまでもつのではないかと。それと、叩き込む場合に、指導する場合に、指導者としては、小学校は40人学級ですか、1クラス最大が。それを何とか教育向上するためには、20人か25人くらいまで、1人の先生が40人も、小学校1年生2年生の子どもを指導するということが、大変なことなので、その辺の人数をこれから南あわじ市は、考えていかななくてはいけないのではないかと思います。41人になったら、20人と21人の2クラスになるということ、その2クラスになれば効果がでてくるけれども、40人になれば、やはり取り残されてくる子どもたちも出てくる。先生が1人ですからね。複式で2人いるところもありますけれども、何とか1クラスの定数をできたら南あわじ市は減していくことが、それと習慣化するためには、40人の生徒を指導する指導者は大変なのです。高等学校でもそうだったのです。48人から40人になって、8人減ればものすごく簡単だったと、我々現場でそう思っていました。だから、人数を減して行って、習慣化していく、そして、指導者はしつこく指導していくということ、これから教育委員会としては現場の先生方に言っていかななくてはならないのかと思います。難しいことを教えるのではなくて、習慣化をつ

けるということは、根本的なことではないかと思います。

【山下委員】 ちょっとピンとははずれるかもわかりませんが、この全国学力学習状況調査は、国語と算数だけなのですよね。他の科目はどうなっているのですか。

【廣地学校教育課長】 全国学力学習状況調査につきましては、小学校は国語・算数、中学校は、国語・数学ですけれども、3年に1回ですけれども、理科が付け加えられます。今、文部科学省の方は、英語テストということで、英語もそれに付け加えるような話もあります。今現在は、理科が3年に1回です。毎年、国語と算数、並びに国語と数学ということでございます。

【宮崎委員】 先生方、指導者の方の意見をたくさん言ってくれたのですが、これは指導していただくというかたちのものには、すごく向上してもらって教えてもらえるのはいいのではないかと思うのですが、教えられる子どもの方の受け入れ方ができてなかったら、やはり先生に教えてもらっても、なかなか受け入れがたいのかなというふうに思います。小学校高学年になったり中学校になったりしますと、学校外の活動であったりとか、部活動に対しては意欲がすごくあって、というかたちで活動しているかと思うのですが、授業になればちょっと心を閉ざすというか、自分で拒否反応があったりとか、そういうふうなことがあるような子どもがいるかと思うのです。やはり指導者のこともあります、子どもの方にも家庭も含めてですけれども、もっと授業に対して活発になるというか、やる気を起こさせるというような方にも向けていけば、学力の方も底上げになっていくのではないかと思います。そういうふうなためにも、また小学校高学年になるまでに、できるだけ子どもの方にも、どんな形に授業をすれば、やる気が起こるであるとか、そういうふうなわかりやすく勉強の方に入れるような体験も必要であるのではないかと思います。

【山見教育総務課長】 その点、やる気を起こさせるような取組についてどうですか。

【廣地学校教育課長】 今、各学校でアクティブ・ラーニングということで、子どもたちが主体的にいろんな学習に取り組めるような、そういう授業づくり、授業改善、今までのような教師が一方向的にしゃべるだけの講義形式から、子どもたちが本当に学びたいものを自分で積極的に学べるような体制、そういった授業改善を研究しております。そういったことと同時に、宮崎委員がおっしゃいました子どものやる気をどんどん起こさせてみたり、子どもをしっかりと伸ばしていく、子どもを理解して伸ばしてあげる研修をしっかりしていただいて、研究していきたいと思っております。

同時に家庭に対しても、家庭学習の手引きの活用や、各学校から発信されておしま

す学校便りや学年便り、学級便り、生徒会便り、児童会便り等を通じて、家庭にも積極的に呼びかけるよう校長会を通じて指導していきたいと考えております。

【河上委員】 私のところも同じような状況なのですが、淡路全体の問題であるかもわかりませんが、書く力というところで、一度、語彙数を、読書していれば語彙数が増えると思うのですが、今の語彙力はどれくらいあるのかという調査を、一度うちでやってみたいと思っております。いろんな教科的な調査と併せて、そんなことも1つの方法ではないかと思っております。それが十分に全国平均並みの語彙数を持っていて、ややその上に尚且つ書く力が弱いとなれば、やはり書く場面を作ってやってないのではないかと。日本の教育の一番の問題かなと思うのは、書く力とか読む力というのは、こうしてやっても、今回からやっているコミュニケーション能力、対話力というのがないのですね。ですから、あいさつとか自分の意見を述べるということが下手であると。仮に知識があつたりとか、語彙を持っていても、人前で堂々とまとめて、何かの形にまとめて話すとともに、これから大きく問題になってくるのではないかと思います。特に、英語力といっていますが、英語でしゃべる前に、日本語を十分に理解していないと英語もしゃべれないと思うのです。基本的には、語彙力・語彙数、こういったものがどれだけ身についているかということだと思います。恐らく、今はインターネットで検索できますから、言葉としては常に知っていると思うのです。それをどんな場面でどのように表現して紙に落としていくか、文字に落としていくかだと思うのです。そこらをこれから伸ばせば、先程市長さんがおっしゃられていた「南あわじ市で教育を受ければ、こういう人間が育つよ。こういう力が付くよ。」というような、ある面、今よく言われる教育で地域創成にもつながるのではないかと思います。1つの調査なのですが、調査とするだけではなく、活かしていくことを考えていかななくてはならないと思います。

【山見教育総務課長】 貴重なアドバイス、ありがとうございます。

それでは、3番目の協議事項に進めていきたいと思っております。

平成28年度主要事業等の進捗状況について、ということでお手元の資料の3ページをご覧ください。

今年度もさまざまな教育施策を行っておりますが、とりわけ教育委員会各所管課におけます主要事業等を掲載させていただいております。

まず、所管課長より現在の取組内容や進捗状況について、資料の順にてご報告・ご説明いたします。

【山見教育総務課長】 まず、私から小中学校等の施設整備の事業について、ご説明をいたします。

1点目は、小学校の空調設備の整備事業ということで、今年度につきましては、予定の広田・松帆・榎列・福良小学校の4校にて夏施行ということで、普通教室を中心に工事をすましております。広田小学校が、工事費が4,159万1,000円、また市立の3校の工事費で1億5,698万9,000円の事業費でした。今回、国庫補助の採択がありませんでしたけれども、次年度の29年度の工事の予定の辰美・八木・市・賀集小学校の整備事業については、このたびの国の補正予算に前倒しということでの申請してありましたところ、採択の内示がありまして、12月補正に工事を計上して、来年度に繰り越しして、来年夏の施行で実施する予定です。その工事費の概算につきましては、4校で、1億6,300万円の予算で執行したいと考えております。その内、補助金の内定額が2,128万8,000円ということで、内定をいただきました。

2点目に広田中学校大規模改造工事の1期工事ということで、今年度予算計上をしてございましたけれども、当初国庫補助の採択がならず、工事を見送ってました。それもこのたびの国の補正予算の採択の内示がありまして、これも翌年度へ繰り越しして工事を予定するというので、今準備をしているところです。事業費が1期工事で、1億5,000万円、補助金の内示額が3,343万3,000円ということです。

3点目は、南淡中学校校舎改修工事ということで、次年度に入学する予定の生徒を対象にバリアフリー化ということで、工事を夏施行中心に実施済みです。スロープの設置、また自動ドア、カーポートの設置、校舎裏側の通路の整備等を実施しました。工事費は、3,050万4,000円ということです。

4点目は、辰美小学校エレベーター設置工事です。これも次年度の入学予定の児童対象ということで、エレベーターを設置します。これは27年度の事業ということで、繰り越しての国庫補助事業です。工期は、10月14日から2月28日ということで、費用は、1,959万2,000円ということで、その他倉庫の設置等も実施を予定しております。

5点目は、三原中学校武道場大規模改造工事です。これも27年度の国の補助事業の繰越の事業です。吊り天井の改修等を実施します。工期は、11月から2月末までということで、昨日開札いたしまして、工事費が7,290万円で落札しております。

続きまして、6点目は、小中学校のICT環境整備事業です。これは、契約期間については、物品の納入自体は、今年度末の3月31日までということで、本契約の賃貸契約、また保守管理については、来年29年度から33年度の5年間で契約しております。生徒1人が1台操作できるタブレット器の導入等を整備いたします。今年度の9月から榎列小学校に機器の検証機ということで導入を始めて、10月中旬から2月末まで、順次各学校に導入を予定しております。

以上、報告いたします。

【山見教育総務課長】 次に社会教育課長の方から、中央公民館駐車場の拡張工事、また松帆銅鐸調査の状況と今後の活用について、説明をお願いします。

【福原社会教育課長】 私の方から社会教育課の関連で、報告させていただきます。

現在、私どもで進めております中央公民館の駐車場の拡張工事についてですけれども、こちらの方は、ちょっと時間がかかっております。といいますのも、地域の方から雨水の流出対策、下流域への対策を考えてくれということです。当初計画しておりました期間的などが遅れてきております。ただ、今後につきましては、道路側溝の改良も含めまして、担当課と協議しながらコンサルに依頼し、雨水対策をしていきたいと考えております。これは11月16日に入札をします。工事の方が年度末を目標にしておりますけれども、若干ずれ込む恐れもございます。

続きまして、松帆銅鐸の調査状況と今後の活用事業ということで、先般も新聞等に出ましたけれども、10月24日に松帆銅鐸調査研究委員会を奈良の文化財研究所の方で開催をさせていただきました。その結果が、7つの内、2つが出雲の加茂岩倉、それから荒神谷遺跡と同範であるということを発表させていただきました。このことは、古事記、日本書記にありますような「国生み神話」が国づくりや国ゆずりの出雲神話とつながってきたというような認識をあらわしております。今後の調査につきましては、現在調査依頼しておりますのは、植物遺体、中にありました植物についての年代測定と同種の鑑定をしているところでございます。また、銅鐸等に残っているヒモや銅鐸の成分分析なども行う予定です。

これらを受けまして、3月5日なのですが、関連のイベントを実施していきたいと考えております。それから、これは資料には書いてないのですが、テレビの放映につきまして、ご報告をさせていただきます。1つは、NHK総合テレビで毎週水曜日に放映しています「発掘お宝ガレリア」という番組をやっているのですが、時間が毎週水曜日、22時25分から22時50分の夜の番組なのですが、司会に市川猿之助さんがやっている番組です。その関係で、12月7日、テーマは、「素人が発見したすごいお宝展」ということで、これは先日、松本産業さんともお電話で話をしたのですが、取材が入っているようなことも聞いております。この取材は、奈良文化財研究所の方でもやっていく予定にしておりますので、12月7日の22時25分から放送があるということが1点です。続きまして、正月番組です。NHKのBSプレミアムで1月3日、21時から22時59分の2時間番組の中の一コマとして、松帆銅鐸がピックアップされております。こちらの方は、「英雄たちの選択、新春スペシャル。ロマンで気分一新、日本のあけぼのの最新情報」ということで、全部で5つの番組というか、5つのことが紹介されております。弥生時代から飛鳥時代までの最新調査、研究のトピックスということで、2番目に「青銅器と弥生人、銅鐸のミステリー」ということで、私どもの松帆銅鐸が取り上げられるようになっております。



以上でございます。

【山見教育総務課長】 続きまして、4番目のサッカー場整備事業、また5番目の学童保育事業について、体育青少年課長の方からお願いします。

【松本体育青少年課長】 まず、サッカー場の整備事業の進捗状況について、ご説明をさせていただきます。

4月の段階では、3地区の候補地について協議してきました。実際には、この候補地につきましても、土地の取得、それに対する制限の問題、それを実施するための資金等で、3地区とも難しいことがわかりました。その後、利用する土地の取得費用の問題のことから、市議会議員から、旧南淡町時代に文化体育館のあたりを大規模な開発事業を行うことになっていたのでは、すでに取得している土地があるのではないか。特に、今ある駐車場でサッカー場ができるのではないかと、という意見が出ました。それについて、詳しい分析をしております。実際に文化体育館の方は、すでに供用しておりまして、今ある平地につきましても、駐車場等について使っておりますので、そのものをそのままサッカー場に転用し利用したら体育館の運営がそのままできるというものではございませんので、現状を比較して当初の計画となったものと比べて、まず駐車場の確保、それに伴う工事等のいろんな問題で、資金面とか、そういうのがどうかということで、今、確認しております。現状の土地の転用につきましても、実際ある今の敷地にそのままサッカー場が入るわけもなく、隣接の土地の掘削等の工事もしなくてはならないので、簡単にいく状況ではございません。ただ今、それについての積算等を行っている最中でございます。

続きまして、学童保育に関してでございますが、これにつきましては、未開設校区につきましても、何とか開設したいということで、湊小学校区、辰美小学校区の早期開設について考えておりますが、実際には指導員の確保ということが、非常に難しいものがございます。現在、地域への要請と処遇面を何とか保育所等の臨時の先生に合せて上げたいということで、交渉して進めております。ただ、何もしていないのではなく、実際には2名だけ配備している開設されているところでも、資格のある方が2名いるということですので、今手伝いに来ている方々につきましても、県が認定している資格の方を取得するように進めていたりしております。それが、今現在の学童保育の状況です。現在も指導員の確保でいろんなところをお願いして回っているのですが、これにつきましては、非常に難しいものがありますので、またご協力の方、よろしく願いいたします。

【山見教育総務課長】 駆け足で今年度の主要事業の進捗状況を報告いたしましたが、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

【岡委員】 松帆銅鐸ですが、南あわじ市に、まだもどってきていないのですよね。南あわじ市に返ってくるのは、いつごろの見込みですか。

【福原社会教育課長】 現在の時点では、調査をしているわけなのですが、調査をするのには、どうしても設備がいりますので、現在は奈良文化財研究所の方で預かってもらっている状況です。このままでいきますと、29年度、30年度についても調査がかかるであろうと考えております。最終的には、31年度末になるわけですが、そのころには返ってきて、どこかで展示できるように考えていきたいと思っております。

【前川委員】 学校訪問をして、確認していることですが、南あわじ市の学校設備整備事業は素晴らしいと実感しています。何より、命を守るための耐震工事が進んでいる。それから、1人のためにバリアフリーであるとか、エレベーターを設置するとか、1人のために何ができるかということを市が考えていると。そして、3点目が、ICT環境整備です。予算額も億単位の大きなものです。かつて「読み書きそろばん」といっていた時代がありますが、このICTという、特にタブレットであるとか、コンピューター関係いろいろありますが、子どもたちにとって、「読み書きそろばん」と同じようなレベルのものになるのではないかと思います。将来を見据えた子どもたちに必要な力ということで、それを教えるのは教師ですが、教師の指導力も併せて、このICT教育が市の中で深まることを願っています。ただし、子どもたちには諸刃の剣ですから、それによって害を被ることもあります。そういう情報機器の有効活用なども併せて指導していかなくてはならないと思います。

【山見教育総務課長】 ありがとうございます。

今後、学校現場の先生方の研修ということで、いろいろ計画して進めたいと思っております。また、危機管理ということで、子どもたちへの悪影響についても、それがないように学校現場、またPTA、また家庭教育の方で進めたいということで、青少年の健全育成も併せながらやるということで、次年度も計画しております。

【藤岡教育次長】 学童保育で、ちょっと補足をさせていただきます。

体育青少年課長から説明があったところでございますが、もともと教育委員会の方におきまして、沼島を入れた5校で未開設校区があったわけなのですが、沼島を除く4校区の学校で場所は確保できております。あと指導員の確保ということで、特に西淡エリアで学童保育の未開設校区が多いということがございましたので、市としましても、なかなか募集だけでは人が集まらないという現状がありますので、西淡エリアの市民交流センター等をお願いしまして、地域でそういう人材が埋もれているのでは

ないかということも含めて、ご協力いただく中で、まず辰美・湊、多いところからということで、この2校について4月開設を目指して現在進めているところでございます。何とか指導員も確保して、4月開設に向けて努力したいと思っております。引き続き、三原志知・西淡志知も開設に向けて努力していきたいと思っております。

【山見教育総務課長】 それでは、市長さんの方から今年度の事業について、何かございましたらお願いします。

【中田市長】 今ずっと学校の改修なり、等々ずっと説明がありました。

この中身については、いろいろあるわけですが、なかなか教育委員会は、初めの計画の時には国庫補助がつくと言って、取りにいつて事業を始めようかといったら、なかなか補助がつかなくて、今説明のあったとおり補正予算の中でしていくということで、時間が少しずれていっているということです。いずれにしても、どんな予算でもいいわけで、国の方のまた合特債等々をうまく使えたらいいわけです。

これから、やっぱりちょっとした建物、ちょっとした設備をするといったら、さっきも前川先生が言っていたように、はした銭ではいかないのですね。たいてい1億、まだ耐震化していたのですが、この後の改修でも、また特に最近空調、これも何億ということで。ですから、その辺を今後、優先順位を付けて取り組んでいかないと、他の施設なり、他の事業にも整合性が取れるようにしておかないと、おいそれと、これからは付きにくいのではないかと思います。これは老婆心ながら申しておきます。

【山見教育総務課長】 他に今年度の事業につきまして、その他の的にもございましたら、お願いします。

ないようですので、4番目の協議の方の移りたいと思います。

4番目は、今後の教育施策の方向ということで、事務局にて協議事項を1点あげさせていただきます。

辰美小学校区の幼稚園等の1園化に向けてということで、私から概要を報告させていただきます。

現在、辰美小学校区の幼児教育施設については、津井幼稚園及び伊加利こども園の2園にて運営を行っています。去る10月14日付けで、津井地区自治会長、並びに地域づくり協議会長の連名にて、市長、並びに教育長の方に報告文書の提出がありました。内容については、辰美小学校区の1園化の候補地でもある旧辰美中学校跡地の利活用について、地域の活性化を願っての企業誘致の推進、また、2点目は、伊加利こども園と津井幼稚園の2つの施設を伊加利こども園に統合して1園にするということについて、津井地区の住民の意見交換会において合意した、という報告をいただきました。

この報告にお応えすべく、今後は企業誘致と並行して課題でありました市が進める1小学校区1園をめざすべく準備を進める所存です。

以上、報告を終わります。

この件について、何かございましたら、お願いします。

**【岡委員】** 企業誘致が先ですが、企業誘致ができなかったら、1園化にならないということですか。

**【山見教育総務課長】** 並行して、進めるということで、やはり、企業誘致の方がやっぱり先に、上の方にあって、今後のところが1本に進むということで考えております。

**【岡委員】** 企業誘致がなかったら、1園化にならないということですか。

**【中田市長】** ちょっと補足をさせていただきます。

実は、辰美中学校の跡地利用ということで、以前からそういう話がありましたし、地元もいろいろ会合の中で出たり、また他の場でも「あれ、どないするねん。」というような話が出ていたわけです。今も課長から話があったとおり、辰美中学校跡地を当初は、伊加利・阿那賀・丸山・津井をそこで1園という話をしていたのですが、なかなか難しいということで、伊加利で3園を伊加利に統合して、今も現実にこども園をスタートいたしております。私どもも、以前から地元の要望なりが具体的な話として、2つほど言ってきたので、それは地元優先で話をしなくてはいけない、ということで、地元優先で進めてきていたのですが、たまたま、あそこに進出したいという、まだ正式な決定も協議も何もございません。地元の方には、ちょっとある部分具体的な話があったようです。あそこで、辰美中学校を企業の進出をしたいというふうに、地元の人たちに話があって、内々に私どもの方、関係する部署にもあったのですが、私たちにしてみたら、今まであそこに、初めはサッカー場にするといったり、認定こども園を4つまとめてしようかと言ったり、それがいっぺんにころっと変えて、果たして今後、皆さんの意見がそうであるのかな、ということで、先般も地元の役員さんにも来ていただいて、向こうからも行きたいと言ったのです。サッカー場は、先程お話があったとおり、これは宙に浮いています。幼稚園の問題、これがやはり、いつまでもちゃんとした形で地元決着を受けておかないと、ということでお話をしたら、やっぱり企業誘致を優先したいと。地元の人たちは。役員の人たちも。それならば、地元の話をまとめてもらって、しかも地元の今、役員をしている人のちゃんとした同意書もちゃんと作って、持ってきてもらわないと具合悪いと。さっそく、その同意書を持ってきてくれています。あとは、お世話している人たちが、そこまでしてくれているのですから、企業誘致を優先していこうかという段階で、まだこれは、応募しない

といけないので、その手続きをまだいたしておりませんが、今申し上げたような流れに近々になっていくと思います。

【山見教育総務課長】 このことに関して、他に何かございましたらお願いします。

それでは、他に今後の教育施策の課題についてということで、今後の方向性で何か委員さんの方からございましたらお願いします。

それでは、まだまだ委員さんには言い尽くせないこともあると思いますが、本日の協議は、これで終了したいと思います。

中田市長さんの方から、閉会のごあいさつをお願いいたします。

【中田市長】 今日は、第3回南あわじ市総合教育会議、皆さん方には、何かとお忙しい中、ご出席賜りまして開催することができました。

それでまた協議事項として、4点、それぞれ担当の方から経緯をお話し、また先生方のいろいろなご意見もお伺いし、今後のいろいろなご指導をいただいたところでございます。

やはり私、いつも申し上げております「人材や。」と。これは、私どものような者が言っても始まりませんが、やっぱり、人材、人づくり、これが何よりでございます。ですから、今日いろいろ出たお話も、教育現場において、そういう流れにちょっとでも取り入れていただければ、非常に有難いと思います。

ところで、私もお案内のとおり、もう退任すると明言をいたしておりますので、今回の総合教育会議で、皆さんとこのようにいろいろお話しするのは、最後であろうと思っております。また人間のことでですから、いつどう変わるかわかりませんが、今申し上げたようなことでございますので、いろいろとお世話になりました。今後ともよろしくをお願いいたします。

閉 会 午前11時38分